

南光台復興新聞

一発行所一

仙台市立南光台中学校
南光台復興委員会

仙台市南光台七丁目24番1号
TEL 022(388)1261
FAX 022(388)1262

抱えるもの いま私達が

震災前後で変化したことは...

●●●生活は震災前後で変化したのか。揺れについての反応は、自宅周辺の環境の変化は、南中の全校生徒に聞いてみました。震災前と比べて変化なしと答えた十八人を除く九十四%は、どのような変化を感じたのでしょうか。

地震の揺れに敏感になった人五十五%・少しの揺れでは動けなくなった人五十六%という結果から地震に対して強気になった様子がうかがわれます。揺れにあまり気が付かなくなったり、揺れにあまり揺れていると怖く感じるようになった人が三%います。

生活の変化については、節電や節水を心がけるようになった人五十二%・今でもペットボトルなどに水を保管 四十八%

●●●懐中電灯など防災グッズが増えた人五十三%
●●●現在でも五割近くの家が警戒を怠らないことがわかります。また、家族のために給水をした六十%
●●●家族のために並んで買い物をした人六十四%
●●●ということから、今回の震災が家族との絆を深めるあるいは見直すきっかけとなつてもいいようです。

●●●家の内外に危険箇所ありと答えた生徒が十七%
●●●自宅周辺の道路に危険箇所ありと答えた生徒が十七%

南光台小学校は、震災で校舎が使えなくなり、現在、四か所にわかれて学習をしています。一年生全員と二年生の二級級南光台コミユニティセンターで、二年生の他の二級級は南光台児童館で、三・四年生は南光台中学校で、五・六年生は八乙女中学校で学習しています。四か所に分かれていますが、関係各位の境にも負けず、それぞれの場所でも明るく一生懸命頑張っています。デメリットをメリットに変える工夫をし、今だから

小学校はいま

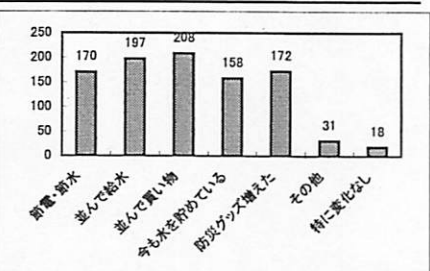


こぞ教えられることをしっかりと指導していきたいと思っております。学校の校庭の整地を行っています。五月二十一日には全校児童が一堂に会して運動会で元気な姿を見せ合います。小学校教頭・高橋

中学校：職員室から

三月十一日と四月七日の地震により、中学校の南北をつなぐ通路と南校舎階段を始め特別教室など、多くの場所が壊れてしまいました。そして南光台小学校の三・四年生の皆さんも四月十八日から中学校で学習することになりました。しかし、四年生の皆さんは教室が足りなくて、体育館で学習するなど、大変不便な生活を送っています。電気・水道に続き、少しくつすが、普段の生活に戻りつつあります。

中あるいは専門家の目では当然違うでしょうが、嬉しくない一位は松森の二十八%。続いて南光台二丁目が十三%、七丁目も十%でした。



今こそ一致団結

震災後、家族で一語に寝るようになった家庭が少なからずあります。親の肩をもむ機会が減った人もいます。家族の団結が強まった証です。また、震災をきっかけに家の近所の人と話すことが増え、助けあうようになったり、友達が増えたり、地域の団結力が強まったからでしょう。三年委員長の梅津和さん

三月十一日午後二時四十分頃、三陸沖中部海溝寄りを震源とする最大震度七の巨大地震が発生した。この巨大地震は震源地からの連動型で、三陸沖中部、宮城、茨城、福島、岩手、宮城、福島の各町内会に波及した。津波も発生し、沿岸部の家屋、学校、漁業関係者などに多くの死傷者が出た。折りました。

町内会から見た南光台

南光台の各町内会におかれても、負傷された方が家屋の損壊を受けた方が少なく、家財道具が壊れた方が少ない。重傷者や死亡された方が少なかったことは不幸中の幸いだったと思う。地震当日、南光台中学校を緊急避難所として九百人も受け入れていただき、また生徒さんをはじめ学校関係者の方々の献身的な活躍に対し、深く感謝申し上げます。各町内会にはそれぞれ特色と誤差はありますが、地域の情報を共有し、公助の前に自助・共助の精神を発揮し、各町内会との連携を取り、指定避難場所と地域に住む人々と中学生や学校関係者との協働の場としていきたい。南一町内会長・渡辺勝雄

編集後記

震災から二か月が経過しました。中学校の門柱が復活し、南光台の階段の補修も始まり、復興にはまだ遠い道です。南光台が一つにできることから復興のために力を尽くしましょう。